

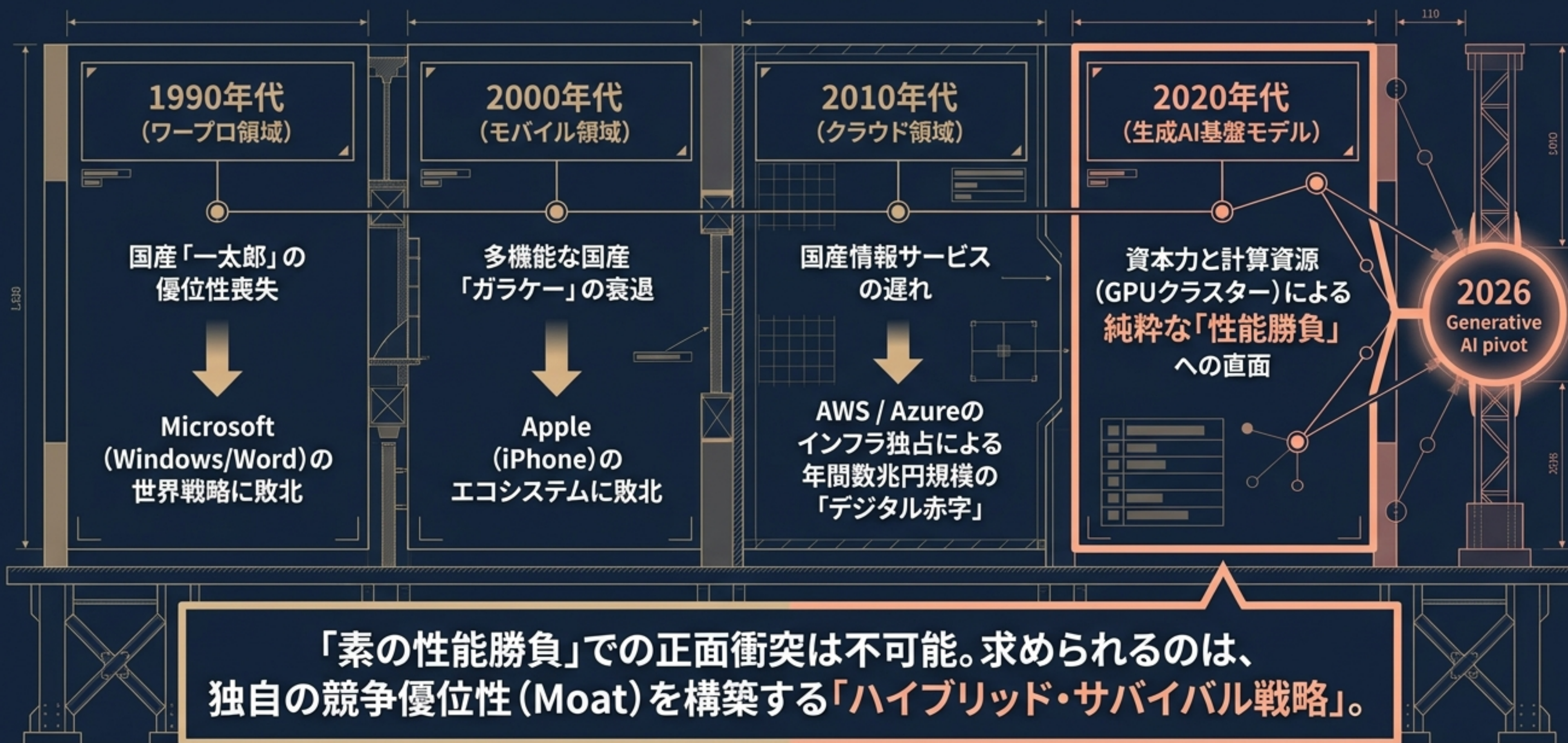


エージェント型AIの社会実装と国産AIの生存戦略

NEC×Anthropic協業が示す、次世代の「戦略的ブループリント」

過去の「デジタルの敗戦」を乗り越え、グローバルなフロンティアAIと国産特化型AIの融合によって、日本企業の競争力と国家の安全保障を再構築する。

繰り返された「デジタルの敗戦」と、AI時代における新たな戦線



SI業界を揺るがす「アンソロピック・ショック」： 人月商売から自律型プラットフォームへ

総AI活用体制（3社合計） 420,000人

NEC（30,000人）

戦略的アプローチ：日本企業初の「グローバルパートナー」。DX価値共創モデル「BluStellar Scenario」への統合。独自AI「cotomi」とのエージェント連携。

日立製作所（290,000人）

戦略的アプローチ：「Lumada 3.0」および自社AI基盤「HMAX」および自社AI基盤「HMAX」への組み込み。

富士通（100,000人）

戦略的アプローチ：「Fujitsu Kozuchi」や独自日本語LLM「Takane」との組み合わせ。

単なるツール導入ではない。
生成AIによるコード生成・デバッグの自動化が「人月商売（労働集約型）」を破壊し、「継続課金（リカーリング）型」プラットフォームへの構造転換を強要している。

単なるライセンス契約を超えた「グローバルパートナーシップ」の全貌



目的は「汎用AIの代理販売」ではなく、日本市場の厳格な要件に適合する
「セキュアな業種特化型AI」の量産エンジンの構築である。

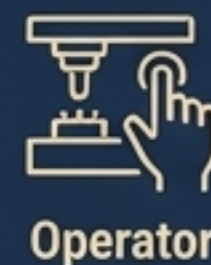
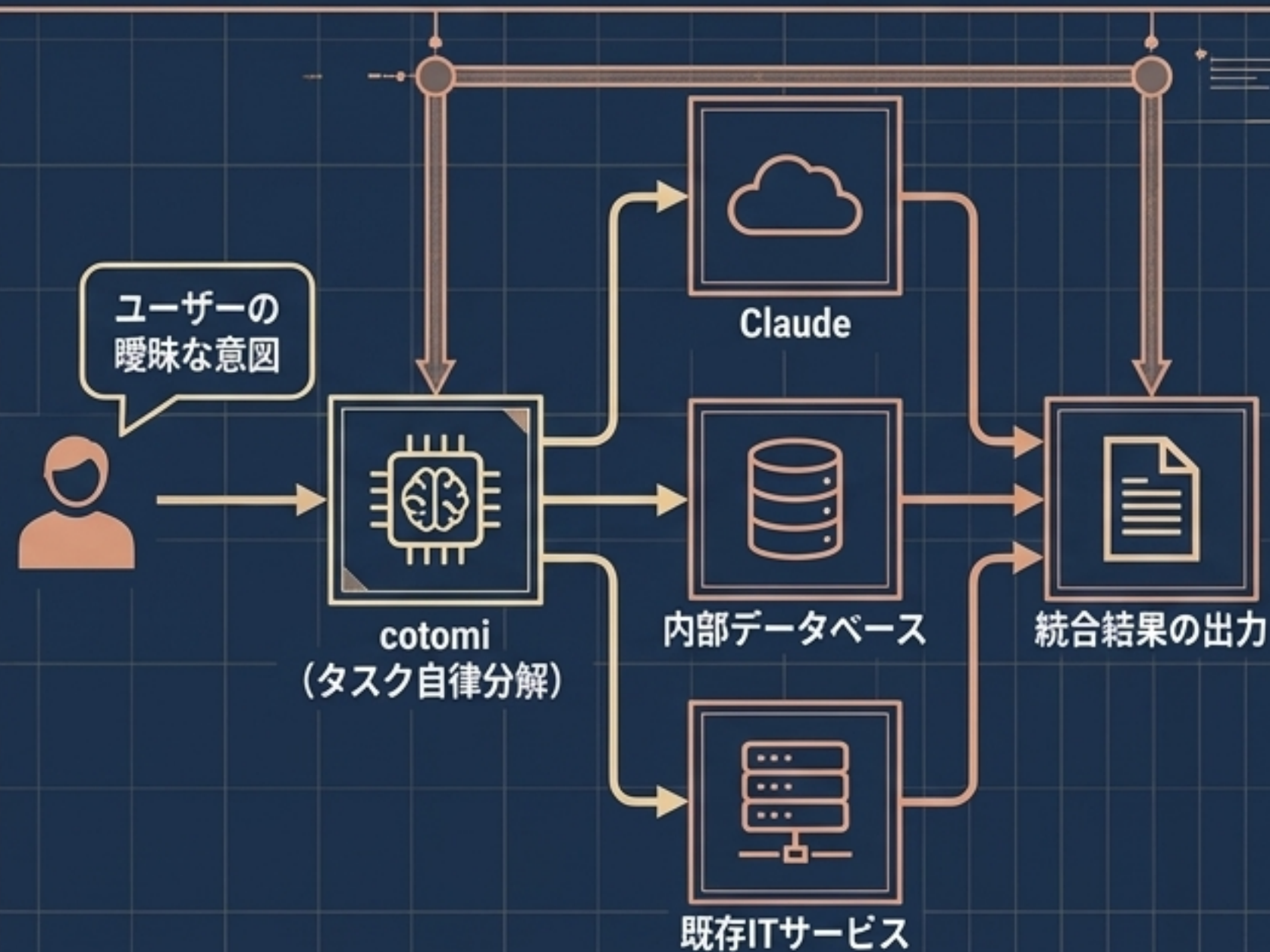
第2のパラダイムシフト：「受動的ツール」から「自律的パートナー」への進化

Track 1 (Passive Tool)

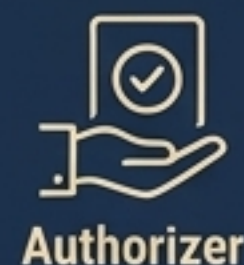


課題：プロンプトエンジニアリングの壁、
手作業での出力結果のつなぎ合わせ。

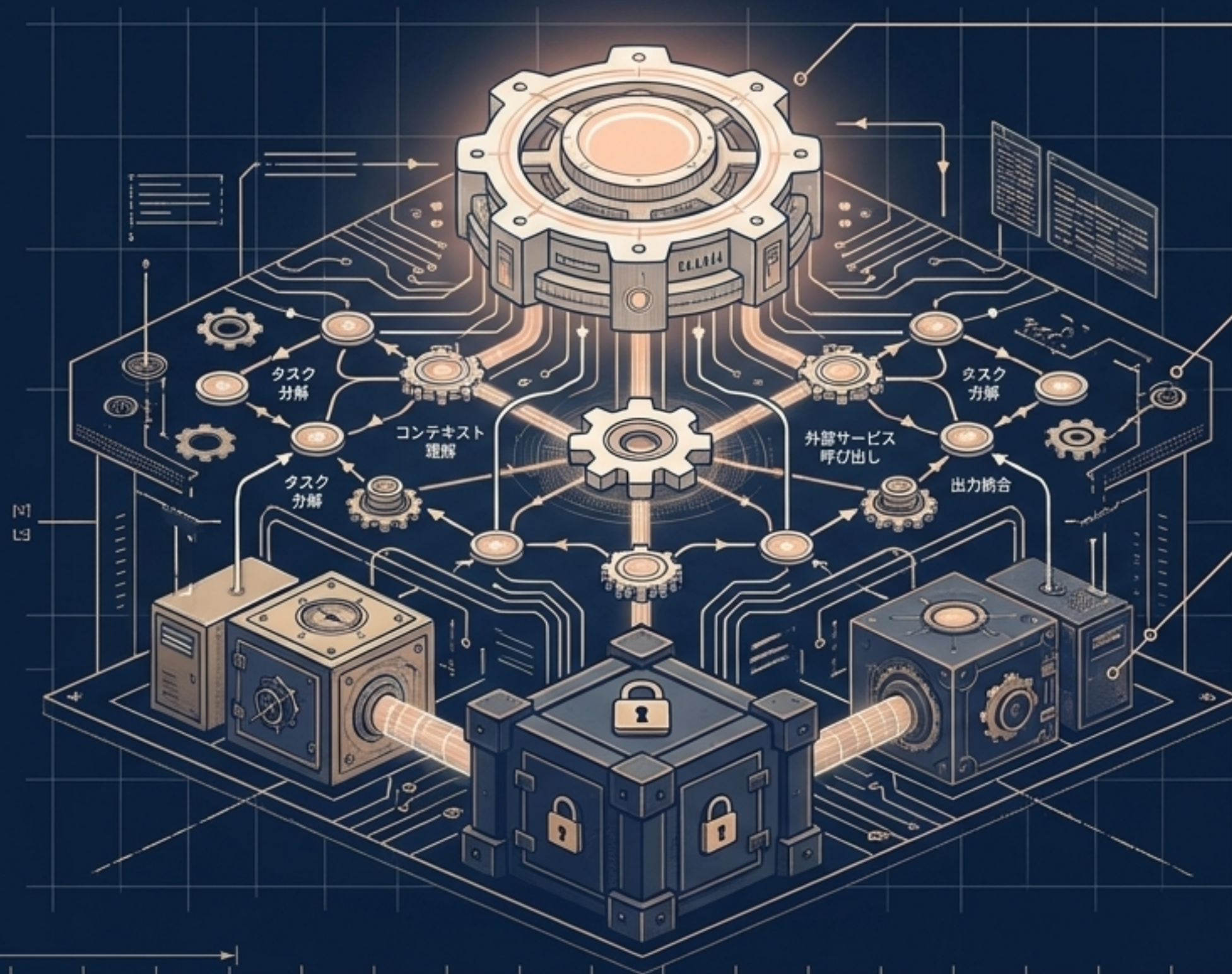
Track 2 (Autonomous Partner)



ユーザーの役割は、
細かな手順を指示する
「オペレーター」か
ら、AIが自律設計した
プロセスを最終評価す
る「オーソライザー
(承認者)」へと引き
上げられる。



国産特化型AIとフロンティアAIの融合： 「脳」と「神経網」のハイブリッド・アーキテクチャ



前頭葉 (Frontal Lobe) = Anthropic Claude

複雑な論理構築、膨大なコード生成、
多言語翻訳、高度なプロンプトの初期解釈。
圧倒的な「素の推論能力」。

神経網 (Nervous System / Orchestrator)
= NEC cotomi

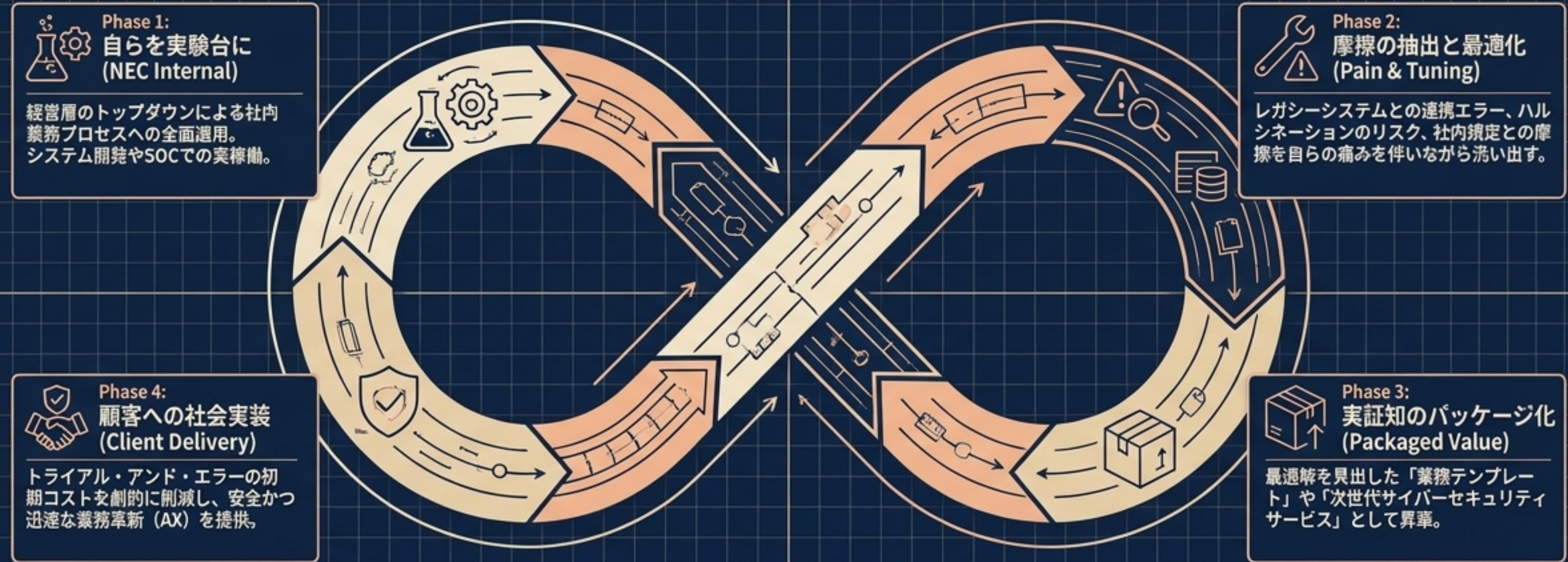
タスクの自律的分解、日本の複雑な商慣習・
文化的コンテキストの理解。
他サービスを最適に呼び出す「司令塔」。

内臓 (Internal Organs) = オンプレミス環境

国家機関や金融セクターの機密データ保護。
完全なデータ主権 (Data Sovereignty) の維持。

すべてを海外の巨大モデルに依存するのでは
なく、推論能力を「脳」として活用しつつ、
業務遂行の主導権 (アプリケーション・レイ
ヤー) は国産AIで完全に掌握する。

実装力を担保する「クライアント・ゼロ」戦略とサイバー防衛の最前線



「机上のスペック」ではなく、自社実践に基づく「**実証知**」こそが、保守的なエンタープライズ市場を開拓する最大の武器となる。

業種特化型AIの最大試金石： 金融トップ7社との「メガ共創」



なぜ、金融機関が競合の垣根を越えて集結したのか？

- ・ 個社単独での技術検証（PoC）の限界。
- ・ 「絶対に止まらない」「情報漏洩を起こさない」「ハルシネーションの極小化」という極限の安全基準。
- ・ 業界横断での知見共有による、標準化された安全な実装モデル（ベストプラクティス）の構築。

金融インフラにおけるAI社会実装の3つの戦略的柱

Pillar 1: 顧客体験 (UX) の 抜本的改善

機能:
高度な自然言語処理
によるパーソナライズ
提案。

実装:
コールセンターのイン
テリジェント化と、ラ
イフステージに応じた
金融商品設計。

Pillar 2: バックオフィスの 自律処理

機能:
膨大なコンプライア
ンス文書・法務ドキュ
メントの照合。

実装:
与信審査の初期スク
リーニングをAIエー
ジェントが自律処理
し、人的リソースを高
付加価値な対人コンサ
ルティングへシフト。

Pillar 3: サイバーセキュリティ とモダナイゼーション

機能:
未知のサイバー攻撃に
対するAI駆動型の監
視・分析基盤。

実装:
レガシーインフラから
モダンアーキテクチャ
への安全な移行とレジ
リエンス構築。

ここで確立された堅牢な「型」は、今後、
製造業や公共・地方自治体へと横展開される基盤となる。

第4のパラダイムシフト:「性能競争」から「顧客適合 (Customer-Fit)」への転換

Global Frontier AI		Domestic Customer-Fit AI	
競争の軸	資本金・計算資源	競争の軸 ドメインナレッジ・実装力	
モデルの性質	汎用的な巨大モデル (万能薬)	モデルの性質 業務課題を解決する特化型モデル (処方箋)	
言語・コンテキスト	英語中心 / グローバル標準	言語・コンテキスト 高度な日本語処理 / 独特な商慣習への完全適合	
データ主権	パブリッククラウドへのデータ送信リスク	データ主権 オンプレミス・閉域網での完全な機密保護 (データ主権の維持)	

「純粋なパラメーター競争という消耗戦を回避し、
日本企業の裏側を知り尽くしたSierのドメインナレッジを注入した
「過学習 (ファインチューニング)」こそが、絶対的な防御壁 (Moat) となる。」

2030年への展望：AIトランスフォーメーションと「新たな安全保障」

AIの社会実装 (End-to-End AX)

- ・コンサルティング、システム構築、運用保守を一体化。
- ・「ツール販売」ではなく、AIと人が協働する「AIネイティブ企業」へのカルチャー変革（ジョブ型人材マネジメント）。

新たな安全保障の技術実装 (Cyber Defense)

- ・急拡大する地政学リスクと「サイバー対処能力強化法（ACD法）」への対応。
- ・自社脅威監視システム「Cy IOC」とAnthropic AIを融合したフルライン防衛サービス。

Empower Humanity ～世界に革新と安心を届ける～
AIによる「生産性の飛躍的向上（革新）」と
「強靱なサイバー防衛網の構築（安心）」の同時達成。

結論：日本のAIサバイバルを支える 「戦略的エコシステム」

Core (The Engine): NEC Client Zero

自らを実験台とする徹底したプロセス研鑽とサイバー防衛の統合。

Middle Ring (The Economy): 業種特化型の社会実装

金融メガ共創（7社）や自治体（選挙事務特化AI等）
へのセキュアなハイブリッドAIアーキテクチャの展開。

Outer Ring (The Nation): 経済安全保障とレジリエンス

グローバルプラットフォームに依存しきらないデータ主権の確保と、
サイバー空間における国家レベルの防衛網構築。

NECとAnthropicの協業は、単なるSierの
ビジネスモデル転換ではない。
それは、過去の「デジタルの敗戦」を教訓に、
日本の社会インフラの深部に独自の強固な
AIエコシステムを根付かせる、
国家レベルの生存戦略の始動である。

